

「三里塚反命」闘争路線で現状打開の唯一の道

日刊 勤労千葉

84. 6. 14

No. 1665

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（22）七二〇七

6/12の臨時委員会が意志一致を達成

勤労千葉は六月十二日、第九回臨時委員会を開催し、八四春闘、動乗勤を中心とする闘いの総括と「余剰人員対策」と称する「一時帰休制」導入をはじめ、いよいよ決戦状況を迎えた国鉄労働運動破壊攻撃に敢然と立ちむかい、六、七月反トマホーク・反戦・反核闘争に決起する意志一致を勝ち取りました。

委員会でかちとるべき課題は何か — 中野委員長が鮮明な提起 —

委員会は十時、山口副委員長のあいさつで開会し、資格審査および委員会成立宣言の後、議長に山下委員（津田沼支部）を選出して始められました。

冒頭あいさつに起った中野委員長は、八四春闘動乗勤、さらには「三万人の過員対策」と称して当局が打ち出した「退職勧奨」「出向」「一時帰休」について分析し、中曽根の理屈ぬきの反動攻勢のまゝに労働運動指導部がなすすべもなく屈服している現状、とりわけ「自民党と共闘して生き残る」路線を選択し、敵の手先としてたちふるまう動労「本部」革マルの反動的役割を暴露、弾劾し、追放・一掃を呼びかけました。

そして、中曽根の軍事大国化・改憲攻撃が国鉄と三里塚の圧殺・解体にむけられ、決戦状況を迎えた中での委員会のかちとるべき課題として、いかなる反動攻勢とも敢然と闘いぬける組織体制の構築、それは「三里塚・労農連帯、反合・運転保安闘争を軸に中曽根打倒」の路線であり、これこそが現状打開の唯一の道との意志一致をかちとることにある点について明らかにしました。

反動攻勢を打ち破る組織体制の強化をかちとろう

— 水野副委員長が「経過」と「方針」を提起 —

続いて「主な闘いの経過と総括」「当面する取り組みについて」が水野副委員長から提案されました。

水野副委員長は、「3・25三里塚」現地集会の「5割動員」実現という圧倒的勝利の地平のうえに、八四春闘、内達―動乗勤改悪阻止闘争を、動労「本部」革マルの裏切り、国労中央の屈服をのりこえ、平野君の殉職事故抗議闘争をはじめ運動保安確立の闘いと結合させて総力で闘いぬぎ、厳しい今日の情勢下においても意気高く労働運動のあるべき姿を指し示した闘いについて総括しました。その上で、当面、切迫する国鉄「二〇万人台」体制―国鉄労働運動解体攻撃を粉碎し、三里塚二



「三里塚―国鉄決戦で中曽根打倒」「過員攻撃にうちかち強固な組織体制を」 ― 挨拶にたつ中野委員長 ―

期着工、トマホーク配備をはじめとする中曽根の軍事大国化・改憲攻撃阻止にむけ、組織体制を強化するための具体的取り組みを提起しました。

十二名の委員から活発な意見

質疑応答では、十二名の委員からおおむね次の意見が出されました。

1. 五月一日の津田沼電車区における、国労を装った謀略的「電車ビラ貼り事件」を弾劾する
 2. 「過員」問題をめぐる状況について（多数）
 3. トマホーク配備阻止闘争決起にむけた取り組みの重要性
 4. 地域班結成にむけた取り組み
 5. 全金本山の状況について
 6. 検査係の登用時期・試験について
 7. 回復昇給問題
 8. 「職場規律の確立」攻撃の激化について
活発な討論の後、「経過」と「当面する取り組み」「スローガン」が全体の圧倒的拍手で確認されました。（「当面する取り組み」は次号で報告）
- 委員会は最後に闘争宣言を採択し、組合歌合唱、団結ガンバローをもって成功裡に終了しました。